

川口市立幸町小学校便り



幸町小だより



令和8年2月27日

第11号

全校児童数

783名

「けんこうな子」「思いやりのある子」「考える子」

言語環境

校長 織本 寛之

いよいよ弥生3月を迎えます。令和7年度最後の月となり、進級・進学と新年度へ向けて始動する時期でもあります。そこで学校では子供たち一人一人の成長を確認し、次の学年への意欲を高めていきたいと考えています。

さて、先日の休日の出来事ですが、書店にて幼稚園児くらいの男の子とその母親との会話を偶然耳にしました。男の子は母親に『〇〇ちゃんとお会えて本当に良かった』と話をしているのです。その会話を耳にしたとき、このような表現を幼稚園児がするのかと思うのと同時に、おそらく家庭において常日頃から親が子供に話している表現なのではないかと感じました。

一方、学校においては子供たちがドキッとするような表現をしているのを時々耳にすることがあります。子供たちが話す言葉は、子供たちが生活している言語環境が良い意味でも悪い意味でも大きな影響を与えているのは間違いありません。家庭では親が話している言葉や動画等の視聴から、学校では教師の話している言葉や子供同士の会話からです。

子供たちが日々触れる言語環境は、学習の基盤をつくる大切な要素です。家庭での会話や読み聞かせ、言葉に触れる時間の積み重ねは語彙力だけでなく、考える力や気持ちを表現する力の育ちにもつながります。

学校では、子供たちが豊かな言葉に出会えるよう日々の授業や読み聞かせなどの様々な活動において工夫していますが、家庭での言葉のやり取りも欠かせない大切な環境です。これからも、学校と家庭が協力しながら子供たちにより良い言語環境を整えていければと考えています。

結びになりますが、いよいよ学年末を迎えます。本年度もPTA役員・保護者の皆様、地域の皆様、おやじの会をはじめ、読み聞かせや図書ボランティアなどの学校応援団の皆様には、温かいご理解とご支援をいただきました。お陰様でこの1年間、教育活動を円滑に推進することができました。ここに深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

